



# 最後まで結論出ないのが人生かもしれません

この欄で報告しましたが、七月の頭には久しぶりに東京へ行って講演しました。

当然のことですが、東京では講演だけやなしにいろんな人と会って、いろんな話をしました。東京はええですなあ。人も知識も詰まっています。

自分で思うに、僕は社長としては、今ひとつでした。そやけど、いつも言うように、人との縁には恵まれてます。これは国内だけではありません。

英語も、ようできないのに、なぜか飛行機に乗って、アメリカのウエストバージニア州に、視察団の一員として行ったことがあります。メンバーは、空調事業売り上げ世界一のダイキン工業さんのような大手企業が多く、僕と、名古屋の人、一人が中小企業からの参加でした。

ウエストバージニア州は、アメリカの東部にあります。アラチア山脈の中にある山の州です。

そこに、アメリカの航空安全局長官がわざわざ来て、僕等を出迎えてくれました。

なんでも、ウエストバージニア州選出の上院議員が、歓迎してくれるということでした。

その上院議員は有名な人だと言います。

誰やと思います？

弁護士さんの家でのホームパーティーに出てきたその人は、なんとロックフェラー四世さんでした。この人がウエストバージニア州の上院議員だなんて、当時、全然知りませんでした。

## ロックフェラー四世さんは 航空産業を地場産業にしたいと

そのロックフェラー四世さんが言うには、なんでも、この州は石炭とガラス産業がさかんやけれど、これからは航空産業を盛り立てて地場産業にしたい、ということでした。

僕は「ええことやと思いますけど、ウチはあきません、中小企業ですから」と応えたくです。

そうすると「お前みたいな特殊な技術をもったところに、来てほしい」と言われ、迷ったんですけど、結局、やめました。

今年三菱重工が、カナダの有名なボンバルディア社のCRJというジェット機を買収しました。元々、そのジェット機の整備や修理、分解点検は、ウエストバージニア州のブリッジポート市で、機材の整備・修理・重整備（分解点検）などを行っていました。

買収後は、従来の事業に加えて、マーケティングやセールス



●(株)アオキ取締役会長  
**青木 豊彦** (あおき・とよひこ)

1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。2020年、国立滋賀医科大学有識者会議委員に就任。(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。



も、ブリッジポート市で業務として追加するそうです。ほんまにロックフェラー四世さんの言う通りに、なってきたんやねえ。

あの話に、乗ってたら今頃どうなってたでしょうなあ。

「ウエストバージニア州には、一〇〇以上もゴルフ場があり、アメリカ初のゴルフ場もあるそうです」と東京のおっちゃんか教えてくれました。

ウーム、仕事に加えてゴルフもできるとわかってたんなら、向こうに事務所つくってたかもしれない。

ウエストバージニア州は田舎で、治安もいいそうです。僕、さっさと移住して、豊かなアメリカの大自然の中で、思う存分ゴルフを楽しんでいたかもしれない。

決断まちごうたかなあ。

**マレーシアは東南アジアで最大の航空宇宙産業国になると宣言して**

海外で著名人に会ったのは、ロックフェラー四世さんだけやありません。

東南アジアでは、マレーシアの首相だったマハティールさんにも、お会いしたことがあります。

マハティールさんは、今九五歳ですけど、元気だと伺っています。僕は、彼が何回目かの首相のとき、執務室に伺ったことがあります。

執務室には、飛行機のモデルがいっぱい飾ってありました。聴けば、マレーシアで航空産業を盛んにしたいそうです。



●マハティール氏を訪ねた若き日の青木会長一行 (1995年10月26日)

マハティールさんは、何回も首相になっています。つい最近も二〇一八年から二〇二〇年まで首相を務めています。九〇代で一国の最高責任者でっせ。僕はまだ七〇代。がんばらないといけません。もつとも、マレーシアは彼の後継者問題でもめてるそうですから、若いうちから、そういう問題は、

謙虚に考えとかないといけませんなあ。

それはさておき、マレーシアは二〇三〇年までに「東南アジアで、最大の航空宇宙産業国になる」と宣言しています。

それに伴い、アメリカの大手、日本の部品メーカーも進出している聞いてます。

(株)アオキとしては、アメリカだけでなく、マレーシアも惜しかったかもしれません。

そやけどコロナ禍は、航空産業に大きな打撃を与えています。海外に進出したほうがよかったのか、悪かったのか……最後まで、結論出ないのが人生かもしれません。